

光勝寺

24.7.1 PHOTO by A.Obara

五大尊蘇民祭の由来

寺伝によると、蘇民祭の起源は、建久2年(1201)元旦から7日にかけて、時の住職が国家安全・五穀豊穰・病魔退散・牛馬安全の秘法を修し、満願日の7日に多数の参詣者が南部光行公の駿馬(しゅんめ)を感得した因にあやかって早朝より数百頭の馬に乗り、長さ92cm、まわり約7cmの**カツの木(ヤマナラシ)**を鞭として坂や段を上ったことに由来する。

蘇民袋

五大尊の蘇民袋は、麻布でできており、縦40cm、口から結び目まで10cm、幅20cmほど。中央に不動明王を表す梵字一文字の下に蘇民袋と墨書され、寺の朱印が押されている。袋の中には、**カツの木(ヤマナラシ)**を一年以上乾燥させ、2cm四方、厚さ3~4mmに切り出したコマ木(駒木、駒札、コマ)365(閏年は366)個と親札1枚が入っている。五大尊を表す梵字5字(5種)を各73枚ずつで合計365枚が用意される。

コマ木には、佐藤住職が「駆け馬」と五大尊を表す梵字(種子しゅし/種字しゅじ)1文字の印判を押して1ヶ月前までに完成させる。できたてだと、墨の印字がにじむためである。

光勝寺本堂



五大尊参道と鳥居



左が光勝寺参道。神仏参道が違和感なく並ぶ。

コマ木と親札 表面



コマ木表は駿馬
親札表は五大尊の梵字五文字

同裏面



コマ木裏は五大尊の一尊梵字

佐藤宥弘住職



佐藤宥弘住職には、コマ木(護符)、親札など、大変興味深い話を伺った。

詳しくは、<http://wadaphoto.jp/maturi/godaison09.htm> 等を参照ください。